

政策番号	10	政策分野	農林業
------	----	------	-----

基本方針	高齢化や後継者不足，農地や森林の荒廃進行に対処するため，職業として魅力ある農林業を再構築し，その魅力を発信することによりさまざまな担い手を確保する。 また，農林業のもつ多面的機能の維持と発揮により，資源循環型産業として社会や環境に貢献するとともに，市民の農林業に対する期待にこたえるため，市民の農林業への参画や農林業を通じた自然とのふれあいの機会を創出していく。
------	---

担当局	産業観光局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する主な分野別計画等	京都市農林行政基本方針
----------------	-------------

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	28 年度	29 年度	30年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	農業粗生産額(百万円)	14,834	18,000	a	a	15,478	15,152	17,619	86.0%	a
2	林業粗生産額(百万円)	775	950	b	c	519	662	889	74.4%	b
				a	b					a

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	28年度	29年度	30年度
1001	産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成(2指標)	a	b	b
1002	環境や社会に貢献できる農林業の育成(2指標)	a	a	a
1003	市民との共汗で築く農林業(1指標)	a	b	b
(3施策平均)		a	a	a

政策の客観指標総合評価		28年度	29年度	30年度
(政策の客観指標評価: 施策の客観指標評価=1:0.5)		a	a	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		28年度	29年度	30年度
1	京都の農林業が魅力を増し，後継者や新たな担い手が育っている。	d	d	d
2	京都の農林業は，環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して，地域社会に役立っている。	c	c	c
3	市民農園や森林を守る運動，学校の体験学習などにより，京都の農林業が身近になってきている。	c	c	d
政策の市民生活実感調査総合評価		c	c	d

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

28年度		29年度		30年度	
順位	%	順位	%	順位	%
25	70.0%	24	71.6%	24	75.2%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている	29年度	B
【客観指標総合評価】 ☑ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 □ c評価以下であり、次の原因が考えられる。			
【市民生活実感調査総合評価】 □ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☑ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・産業としての農林業に対する支援が主体となる施策であるため、市民生活において施策の達成度が実感しにくい、c評価以下となったと考えられる。		28年度	B
【総括】 ・本市では農林業の従事者割合が極めて少ないため、担い手確保の取組が市民生活への実感を伴っておらず、また、市民が農林業と触れ合う機会が少ないことから低評価となった。一方、京の旬野菜の供給や間伐の促進など、農林業が持つ多面的機能の発揮については、一定目標を達成しており、総合的に判断して、この政策は目標がかなり達成していると評価する。			

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価＋市民生活実感評価)＞

施策番号	施策名	総合評価		
		28	29	30
1001	産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成	B	C	C
1002	環境や社会に貢献できる農林業の育成	B	B	B
1003	市民との共汗で築く農林業	B	B	C

＜今後の方向性＞

①産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成

・生産者と消費者が互いに顔が見える関係の構築、市内産農林産物に関する市民への情報提供、農林業と他産業との連携や6次産業化など、生産・流通・消費を通じた対策を講じることで、農林業経営の安定化を図り、更なる農林業の振興を進める。

②環境や社会に貢献できる農林業の育成

・水源涵養機能、二酸化炭素吸収源、環境負荷抑制効果など、農林業が持つ多面的機能を市民に伝えるとともに、農業用水路に治水機能を付加し、雨に強いまちづくりを推進する。

③市民との共汗で築く農林業

・市民・学童が農業と触れ合える機会の提供やモデルフォレスト運動の推進を通じて、農林業に市民の力を活かす取組を継続していくとともに、市民への農林業情報の提供を充実させることにより、市民生活においても施策の達成度が実感できるよう取り組む。

政策名	10	農林業
-----	----	-----

指標名	農業粗生産額（百万円）				
-----	-------------	--	--	--	--

担当部屋	農林振興室	連絡先	2 2 2 - 3 3 5 1		
------	-------	-----	-----------------	--	--

1 指標の説明

市内農業によって得られた年間の粗生産額

2 指標の意味

産業として魅力があり、環境や社会に貢献するとともに、市民参画が推進された農林業の構築状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
	14,834	18,000	京都市農林行政基本方針の平成31年度目標値		

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	15,478	15,152	326百万円減	17,619	京都市農林行政基本方針の目標達成のために当年度達成すべき数値＝平成19年度現況値（16,474百万円）と京都市農林行政基本方針の目標数値（平成31年度18,000百万円）から各年度の目標数値を等差的に算出	86.0%

	全国順位	中長期目標				備考	算定に用いるデータの収集期間の関係から、平成28年度値が最新となる。
		数値	目標年次	達成度	根拠		
数値		18,000	31年度	84.2%	京都市農林行政基本方針		

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会経済情勢及び自然環境条件の影響度が高いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

28	29	30
a	a	a

指標名	林業粗生産額（百万円）				
-----	-------------	--	--	--	--

担当部屋	農林振興室	連絡先	2 2 2 - 3 3 5 1		
------	-------	-----	-----------------	--	--

1 指標の説明

市内林業によって得られた年間の粗生産額

2 指標の意味

産業として魅力があり、環境や社会に貢献するとともに、市民参画が推進された農林業の構築状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
	775	950	京都市農林行政基本方針の平成31年度目標値		

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	519	662	143百万円増	889	京都市農林行政基本方針の目標達成のために当年度達成すべき数値＝平成19年度現況値（707百万円）と京都市農林行政基本方針の目標数値（平成31年度950百万円）から各年度の目標数値を等差的に算出	74.4%

	全国順位	中長期目標				備考	算定に用いるデータの収集期間の関係から、平成28年度値が最新となる。
		数値	目標年次	達成度	根拠		
数値		950	31年度	69.7%	京都市農林行政基本方針		

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会経済情勢及び自然環境条件の影響度が高いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

28	29	30
b	c	b